

ギャップイヤー・ボランティアの受け入れについて

(日本ボランティア学習協会)

本協会では、イギリスの国際ボランティア機関『Project Trust』との提携により、同機関から派遣された「ギャップ・イヤー」(Gap Year) ボランティアの受け入れを行っています。2019年度も8名のボランティア青年の受け入れを行いました。

ボランティアの青年たちは、来日時に東京で2日間の事前研修を受け、その後国内各地の受け入れ団体等で、1年間にわたり、英語教育支援や国際理解教育への支援活動を行います。

この事業は、1990年に(社)日本青年奉仕協会(JYVA)によって日本で初めて受け入れが開始されたもので、現在では日本ボランティア学習協会が日本での受け入れ窓口となっています。

ギャップイヤーボランティアとして活動しているのはイギリスの大学入学直後の若者たちで、毎年受け入れ数は8名程度です。受け入れ総数は、2019年度まで約150名に及んでいます。

ボランティアの青年たちはそれぞれの受け入れ先で、二人一組で活動。活動内容は、幼稚園、小・中・高校などでの英語教育や国際理解教育支援、社会教育施設での英会話講座や異文化理解教育、さらには地域社会における非営利組織での多文化共生活動への支援など、多様なニーズに応じています。

イギリスの『Project Trust』によれば、青年たちの日本でのボランティア活動への関心は高いようです。

どうか本事業の趣旨についてご理解いただき、事業の普及拡大に向けて、引き続き会員の方々をはじめ、多くの皆様方のご協力をお願い申し上げます。

本協会としては引き続き、受け入れていただく活動先を募集しています。受け入れ条件などの詳しいことは、興梠代表理事：昭和女子大学 (koroki@swu.ac.jp) までお問い合わせください。なお、活動現場の訪問見学も可能です。

